

文学の散歩道 入選作品 皐月（五月）

短歌

朝光に川辺の木芽ふくらみて
流るる水のゆるやかな音

近江富士 林 くみ子

面会は叶わぬ日々が続く中
通院通じ母に寄り添う

守山市 小島 京子

蜘蛛の糸張りて罫に雨の露
虫が飛び込み身動きもせず

三上 櫻木 博子

俳句

新緑や黄帽子踊る午後三時
箸並べ義父の年回蜆汁
背伸びして蝶々目線の藤の花

高木 都人
小南 泉 歌子
西河原 中山 博

川柳

ありがたや車の黄砂流す雨
「お帰り」とその一言で仲直り
結びの語素人女房に玉斧乞う

高木 都人
近江富士 中村 城啓
小南 木楽蜻蛉

冠句

（受け入れる）

受け入れる 円く治める年の功
受け入れる 本音隠して輪の中に
受け入れる 波を治めて広い海

竜王町 若井 初子
竜王町 和美
小南 木楽蜻蛉



次回 水無月（六月）の題目

冠句【照れ臭い】

お問合せ 文化スポーツ振興課

電話：〇七七（五一六）四五六八